

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	港南区民活動支援センター運営事業	
事業の実施者	団体等	一般社団法人こうなん区民利用施設協会
	行政	横浜市
事業の目的	港南区域における中間支援組織として、地域課題の解決や魅力ある地域づくりに向けた市民公益活動と生涯学習活動を支援します。	
事業の内容	ア ネットワークの構築 イ 相談・コーディネート ウ 市民公益活動に関する活動の場の提供、活動支援に関すること エ 市民公益活動に関する情報の収集・提供・発信に関すること オ 人材バンク（街のアドバイザー）事業に関すること カ 区民利用施設等との連携による活動支援 キ 講座・イベントに関すること ク その他区長が必要と考える事業	
役割及び責任分担等	次頁の「【別紙】事業の役割及び責任分担表」	
実施期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日まで	

記入日	令和 7 年 3 月 31 日
記入者	[団体等] ・団体等名： 一般社団法人こうなん区民利用施設協会 ・記入責任者 港南区民活動支援センターセンター長 氏名： 泉 有子 連絡先： 045-841-9361
	[行政] ・部署名： 港南区役所地域振興課 ・記入責任者 地域力推進担当課長 氏名： 林 千賀 連絡先： 045-847-8383

2 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		センター→行政	行政→センター
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	B	B
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	B	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	A	B
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	B

②事業実施段階

		センター→行政	行政→センター
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	B	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	B	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	B
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	B
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	B

③ふりかえり段階

		センター→行政	行政→センター
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果を得られたか、話し合っ共有できたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。	A	B
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	A

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

【センター→行政】

事業の計画づくり (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ・月に一度の定例会の開催や、日ごろからの積極的な交流により、事業の目的や意義を理解し、計画段階より情報を共有することができた。
【今後改善が必要と思われること】 ・すべての事業は、事業計画に則って計画・実行していますが、地域振興課協働事業と他の事業との選別が曖昧なので、今後は方向性の検討が必要だと思われる。
事業実施 (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ・地域活動スタートアップ講座「園芸ボランティア養成講座」では、地域振興課の職員が講座に参加してくれたこともあり、参加者への細やかなフォローができた。 ・年に3回の拡大定例会の開催により、地域振興課(区民活動支援係、地域力推進担当)・区制推進課・福祉保健課・社会福祉協議会などの様々な関係部署と情報を共有し、事業を円滑に進めることができた。 ・イベントや事業に関して、役割分担が明確に示されていないケースがあった。
【今後改善が必要と思われること】 ・自治会町内会・地域との連携事業や、地域の人材を発掘・養成講座では、目標達成に向けて、連携の強化を図りたいと考える。
事業の成果 (協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)
・ネットワーク会議では地域振興課の生涯学習事業で、施設が連携して事業展開をした「まなび応援事業」の成果発表を行った。 ・「街のアドバイザー交流会」を区役所の会議室で開催し、普段は個々に活動している講師や、講座を開催する施設担当者などが交流を図り、その後のイベントで連携することができた。 ・「港南区民利用施設をめぐるスタンプラリー」では、32の区民利用施設と13の協賛企業(店舗)にご協力いただき、区民の健康増進と施設の場所や活動を知ってもらうことができた。
自由記入欄
・地域振興課職員が施設へ出向き、センターの広報を積極的に行い、細かいニーズや新しい地域人材の情報の提供をしてくれています。また、密なコミュニケーションにより、双方の業務を理解し協力して事業を進めることができた。 ・ネットワーク施設の掲示板「こうなんひまわりネットワーク」を施設が、さらに効果的に活用できるように、区役所主催事業の発信や定期的な更新などの協力を仰ぎたいと思う。

【行政→センター】

事業の計画づくり

(協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・月に一度の事務連絡会の開催や日頃の連携を通じ、事業の意義や双方の考える目標を計画の段階で共有することができた。
- ・今年度新規で実施した「港南区民利用施設をめぐるスタンプラリー」については、事業の企画段階からすり合わせを行ったことで、お互いの認識に相違が生じることなく円滑に事業を実施することができた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・事業をより多くの方に知ってもらうために広報よこはまを活用したが、広報スケジュールのつめがあまかった。事業スケジュールを策定する段階から、広報についても並行して検討する必要がある。

事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・双方の仕事や役割を理解した上で、事業の実施に対して協働で実施する体制ができてきた。
- ・区民利用施設と連携する機会が増えたことで、センターに情報が蓄積されるようになっている。そういった情報を活用し、区が実施する施設連間携事業に対して適切にアドバイスを実施した。

【今後改善が必要と思われること】

- ・各施設の情報を発信する「ひまわりネットワーク」については、活用しきれていない部分もあるため、施設の意見等もふまえたうえで、有効な活用法を検討する必要がある。

事業の成果

(協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)

- ・日頃の事務連絡会や密な情報共有を通して双方の仕事や役割への理解が深まったことで、施設を対象とする生涯学習事業や、地域イベントなどに協力することができた。

自由記入欄

- ・地域活動の担い手が減少している状況を踏まえると、区民活動支援センターに求められる役割はよりいっそう大きくなる。今後はこれまで以上に自治会町内会の活動を支援するために、こういった取組が有効かを双方で協議しながら検討していく必要がある。引き続き地域活動の活性化に向けて、協力して取り組んでいきたい。